

情報収集ツールとしての プロビジョナルデンチャーの重要性



西原 徹

欠損歯列におけるパーシャルデンチャーの機能や維持安定のためには、多くの口腔内の情報が必要である。しかし一般的にラボサイドでは、口腔内の情報の多くが模型でしか得られないことで限界がある。そのため、模型では得ることのできない口腔内の情報を得るためには、チェアサイドと情報共有が重要であると思われる。演者は日頃の臨床において、その情報共有のためにプロビジョナルデンチャーを活用している。つまり、初期治療から最終補綴装置を製作するまでの各ステージにおける目的の不安要素や問題点を抽出し、それらを改善するためにプロビジョナルデンチャーの形態を生体に適合するように変化させ、より適切な機能や維持安定をファイナルデンチャーへ移行させることである。

今回は、プロビジョナルデンチャーの目的や構成などの基礎概念を提示したあと、その役割および設計基準等を日常の臨床ケースを示し解説していく。

【略歴】

- スタディグループ k.s.i 理事
- 2008年 新大阪歯科技工士専門学校 卒業
- 2008年 アリダ・デンタルアート 入社
- 2013年 k.s.i ベーシックコース 受講
- 2014年 有限会社デンタル・プログレッシブ 入社